

平成29年度医療イノベーション 人材養成プログラム 特別講演会

主催：東京医科歯科大学 共催：医療系産学連携ネットワーク協議会 (medU-net)

「ライフサイエンス分野における日・米・欧 特許取得管理戦略」

平成29年12月9日（土） 13:30 – 17:00

東京医科歯科大学 3号館3F 医学科講義室2 

どなたでも
参加可能
参加費無料
先着100名

米国最高裁によるMayo及びMyriad判決以降、自然物由来の創薬や遺伝子診断や治療に関しては日本の実務にあわせて作成したクレームに対し拒絶を受ける事例が増加している。また、既に発行した特許がUSPTOの当事者レビュー等によって無効とされる可能性も増大しており、米国判例の動向が権利行使やライセンス交渉に大きな影響を与えている。一方日本においても、医薬・バイオ分野においてサポート要件のビジネスに与える影響が大きくなってきている。本セミナーでは、前半、アメリカ、日本及び欧州でグローバルに活躍しておられる先生方に現在、日米欧で起こっている出願実務と権利行使の現状をご講演いただく。後半のパネルディスカッションでは、発明要件及びサポート要件を中心に日米欧の違いを検討し、より広く且つ有効な権利をグローバルに取得するための明細書作成戦略について議論する。

プログラム

13:30-13:40 開会挨拶 東京医科歯科大学 産学連携研究センター長・教授 飯田 香緒里

13:40-14:00 「ライフサイエンス分野の重要最高裁・CAFC判決」

ワシントン大学ロースクール

慶應義塾大学大学院法務研究科 教授 竹中 俊子 先生

14:00-14:30 「USPTOにおけるIPR・PGRの実務 Mayo Myriad判決の影響」

ミズモト外国法事務所 弁護士事務所 クリス・ミズモト 氏

----- 休憩 15 分 -----

14:45-15:05 「日本特許法における医薬・バイオ分野関連特許のサポート要件」

内山務知財戦略事務所 内山 務氏

15:05-15:25 「アメリカ特許法における自明型ダブルパテント」

阿部・井窪・片山法律事務所 日野 真美 氏

15:25-15:45 「欧州特許出願の作成に関する提案」

ミュラーボレ&パートナー弁理士事務所PartG mbB 和田 麗子氏

15:45-16:50 パネルディスカッション

モデレータ：ワシントン大学ロースクール

慶應義塾大学大学院法務研究科 教授 竹中 俊子 先生

16:50-17:00 閉会挨拶

総合司会：ワシントン大学ロースクール

慶應義塾大学大学院法務研究科 教授 竹中 俊子 先生

- 本講演会は事前登録制です。下記URLのフォームからお申込くださいませ。

<https://www.tmd-tlo.jp/h29tokubetsukoen.html>

※当日やむを得ず来場が出来ない場合で、配布資料を希望される場合は、当事務局まで返信用封筒（定形外・140円）をお送りくださいますようお願いいたします（非常に多くの方が資料を希望されるため）

- 開催責任者 東京医科歯科大学 産学連携研究センター長 飯田 香緒里
- 問合せ先 〒113-8510 東京都文京区湯島1丁目5-45 東京医科歯科大学 産学連携研究センター
医療イノベーション人材養成プログラム係 03-5803-4042 center.tlo@tmd.ac.jp